

平成28年度第1回大府市総合教育会議議事録

招集年月日 平成28年7月7日
招集場所 大府市役所 委員会室1
開 会 10時00分
閉 会 11時30分

委 員

市 長	岡村 秀人
教育委員長	河合 昌和
教育委員	永田 司
教育委員	西村 和子
教育委員	竹中 万里
教育委員	浅井 宣亮
教育長	細谷 正明

委員以外の出席者

副市長	山内 健次
教育部長	内藤 郁夫
学校教育課長	大島 将嗣
学校教育課係長	大山 容加
学校教育課主査	稲垣 七重
企画政策部長	新美 光良
企画政策課長	久野 信親
企画政策課主幹	福島 智宏
企画政策課係長	川出 陽一

傍聴人なし

協議・調整事項

- (1) 大府市教育振興基本計画〔(仮称)大府市きらきら教育推進プラン〕の改定について
- (2) 新市長の教育施策について

発言者	要 旨
河合委員長	<p>第1回の総合教育会議ということで進行をさせていただきます。</p> <p>大府市総合教育会議運営要綱第4条で、細谷教育長が行うということでありますけれども、知教行法の改定から、まだ、新細谷教育長制度に大府市は変わっておりませんので、便宜的に教育委員である私の方で進行の方を進めさせていただきます。</p> <p>新しく市長さんが着任をされて、私どもも大変楽しみにしていた会議であります。今日は各委員の方、宜しくお願いします。</p> <p>始めに岡村市長さんの方からご挨拶をいただきたいと思います。</p>
市 長	<p>こんにちは。今日は第1回の総合教育会議ということで御参集いただきまして、委員の皆さん、ありがとうございます。また日頃は、子どもたちの教育行政に関しまして様々な御理解、御協力をいただきましてありがとうございます。御礼を申し上げたいと思います。</p> <p>私は4月13日に新たに市長に就任をいたしまして、後ほど少しお話をさせていただきますけれども、選挙戦を通じまして、この教育問題については、新しい教育委員会制度を生かして、子どもの確かな学力の育成等を充実させるということとともに、どうしても遅れがちになっている小中学校の施設整備について力を入れたいということ、公約で掲げてまいりました。この6月の補正でも予算化をさせていただきましたけれども、その公約に沿って進めさせていただきたいと思っておりますので、御理解、ご協力のほどよろしくお願ひしたいと思います。それで、前市長とは多少教育委員会に対するスタンスが違うかと思ひます。久野前市長はどちらかという、伸びやかに子どもを育ててくれればよいと、あとはお任せしたというような、スタイルだったかと思ひますけれども、その伸びやかに育てていただきたいというスタイルは同じでございますけれども、私としましては、やはりこれだけの市の予算を投入しているということもございまして、その成果として確かな学力とか、体力とか、目標をもって進めさせていただきたいというようなことを、これから計画策定に当たってお願ひをしていきたいと思っておりますので、できるだけその数値目標といいますか、そういうのを定めて、それに基づいて進めさせていただきたいと思ひます。</p> <p>併せまして、子どもたちの体力不足というのが非常に、これは実際どうかというのは私も、学力、体力テストの数値しか知りませんので、わかりませんが、その辺のデータの的には、体力テストの数値というのが非常に芳しくない数字が出ているというふうにも聞いておりますので、もしそれが正しい状態を示しているのならば、体力の向上についても、是非一緒に取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>私からは以上でございます。</p>
河合委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>私も新市長さんが、どのような行政のトップとしてお考えを持っていられるのか、これから新市長さんの岡村語録というものを公私共に集めながら、私も一つの輪郭をつくっていかうと個人的には思っています。先ほどもご挨拶の中にいくつか問題点もすでに御指摘をいただきました。後ほど、またいろんなお考えもお聞かせいただけたらと思っております。</p> <p>初めに、第1回ということで、市長さんから順番に自己紹介を進めていきたいと思っております。</p>
	(名簿順に自己紹介)

発言者	要 旨
河合委員長	<p>ありがとうございました。 それでは、次第の「3 協議・調整事項」に入ります。 (1) 大府市教育振興基本計画の改定について、事務局から説明をさせていただきます。</p>
学校教育課長	(大府市教育振興基本計画の改定の内容説明を説明)
河合委員長	質問がありましたら、先にお願いいたします。
	(質問なし)
河合委員長	<p>無ければ、中身について何かご意見・ご感想がございましたら願いいたします。 少しお考えをいただく時間ということで、少しお話をしたいと思っておりますけれども、5ページのところには計画の位置づけで、図表が載っているわけですが、その中に、国の教育振興基本計画から直接、大府市のほうに入っております。私も大府市は先般、教育委員会でも細谷教育長からいただきましたように、県のいわゆる愛知の教育ビジョン2020、つまり新しい学習指導要領が実施されていくのにあわせて、ちょうどぴったり合うわけですが、それまでも、道徳はもう移行して昨年からやっているということですので、それがわかるようにしたと思っております。県の基本理念というのは、自ら高めることと、社会に役立つこと、この二つの視点を立てて、愛知の人間像を設定しております。例えば、先ほど説明がありましたように、第2章が1番大事なところですが、教育大綱のところでは「めざす子どもの姿を実現するための施策の方向性」があります。ここではきちっとしたことがずっと書かれておまして、9ページの(5)で、「郷土を愛し、社会に進んで貢献しようとする態度を育てます」と、まさに、愛知の教育ビジョン2020に、基本的な視点として付帯していいいなと思っておりますが、私どものこの大綱というのは、県とか、国の考え方も十分踏まえながら進めているという、アピールも必要ではないかとを思っております。 みなさんはいかがでしょう。</p>
細谷教育長	<p>今の河合委員長のご指摘にこたえる発言になるかどうか自信はありませんが、ご指摘のあった9ページの(5)につきましては、全国学力学習状況調査の中に、いわゆる国語や算数、数学の学力に関する調査とは別に、さまざまな質問項目が挙がっていて、そこで大府の子どもたちの実態みたいなものを伺い知ることができるんですが、その項目の中で、「あなたは地域の行事に進んで参加しますか」というような設問があるんです。それを見ますと、大府の子どもたちは県平均、あるいは全国平均に比べて、地域の諸行事に積極的に参加していますという実態が浮き彫りになっています。これはいいことだなと思うのですが、一方で、同じその質問の中であなたは自分の住んでいるところに、正確な文言は違いますが、関心がありますか、というような設問があるのですが、これが低いんですよ、県平均や全国平均に比べると。ですから、地域行事に参加しているんだけれども、でもその参加している地元の大府をどうこうしたいとか、しようとか、すべきだということまでの気持ちが、ひょっとしたら高まっていないんじゃないのかなというところがある、私の中にはひっかかっているところがありましてね。ですから、より地元大府を愛する子どもになってほしいし、よりよい街にしていけるための小さな市民として、問題意識を持って地域との関わりを持って欲しいという、そのような意味合いも込めて述べてあるというふうに理解しておりますが、河合委員長がおっしゃったことと共通するかどうかわかりませんが、それをさらに施策の方向性を具体化する中で、そうした大府の子ども達の実態も反映できたらいいなということも思っています。</p>

発言者	要 旨
	以上です。
河合委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>今の細谷教育長さんの思いを伝えて頂きましたが、私は難しいことを最初言ったわけではなくて、この図表に、例えば、「国・県」とか、県を入れておく必要があるのではないかとということぐらいです。中身について、今、先生がおっしゃったことは非常によくわかるし、大変大事なことだろうと思っておりますので、もうちょっと前に進んでいくようなもの、例えば、教育大綱をいろんな市が作りますけど、我が大府市で作るものは、結果として同じものかもしれないけども、少し新しい光が入っているぞと、市長さんも変わられて、そういうものを何とか作りたいなという思いがあるんです。例えば県の理念を言葉として、どこかに書いておくということが、まだ中核都市になっていませんので、すべて教育において権限移譲されておりませんから、我が市は愛知県の中の一員でありますので、教育の部分については、県の色々な指示に従うではないですけど、まずは難しいことではなく形式的なことで、5 ページのところ、国・県でもいいですし、愛知の教育ビジョン2020、そんな言葉を少しどうだということですよ。</p>
細谷教育長	その件については全くご指摘のとおりだろうと思っておりますから、議論云々ではなくて入れてまいりますので、御理解ください。
河合委員長	どういう形でも結構ですので、少し色目を使う方が格好としては良いと思います。
浅井委員	<p>大綱というよりも、今の細谷教育長のお話に触れるようなことだと思うんですが、郷土を愛する心とか大府に対する関心を子ども達に高めてもらいたいというときに、やり方は二つある、二つじゃないかもしれませんが、一つは、大府に対して詳しくなってもらうという方向性もあると思うんですけど、もう一つは、外との比較で大府はこんな位置にあるんだよ、こんなに恵まれているんだよとか、そういうこともやっぱり必要だと思うんです。ですから大府市の多分ほとんどの子どもが、学校で給食を作っているのが当たり前と思っているところがあるかもわかりませんが、知多半島で少なくとも自校方式の給食は大府市だけだとか、知多半島と大府、県と大府、国と大府で、うちはどんな立ち位置にあるんだということに関心を持たせるようにすれば、その結果として、郷土を愛する心の育成にもつながるんじゃないかなと少し思いました。</p>
河合委員長	<p>ありがとうございました。今、浅井委員さんのご指摘は食育の推進ということに関わって、そんなことのPRもきっちりしたらという事であるかと思えます。</p> <p>具体的には、施策の展開の食育の推進の中に、自校調理方式による給食提供とか、体力に関することとか、いわゆる、健康教育・体育づくりの推進ということに深く関わっておりますので、具体的な論述の中では、浅井委員さんのご指摘の様にやはりきっちりPR出来るような形で持っていくのがいいというご指摘だと思っております。</p> <p>他にございますでしょうか。市長さん、よろしく申し上げます。</p>
市長	<p>全般的には良く出来ているかなと思うのですが、一点内容を説明いただきたい。8 ページの(3)個に応じたということですけども、3行目のICTを有効活用した協働学習というのがどういうものなのか、私にとっては非常にわかりにくいんです。それで、ICTもいいですけど、あくまでもそれはお子さまの教育の為の一つのツールにすぎないので、ICTで全て解決するようなイメージになってしまうので、ICTでもそうですし、ALTでもそうで、あくまでもツールなので、この辺をもう少し、あと施策の方</p>

発言者	要 旨
	<p>向性でも出てきますけども、もう少し表現が何とかならないかというのが一つです。もう一点、この「個を大切にした教育の充実」という、これも非常にいい内容だと思うんですけど、個を大切にするというのは標準を考えて、標準に達しない子に対して個別にいろいろ上げる為の教育というものあるんですけど、そうじゃなくて、それも大事だけど、標準よりも飛び抜けて上の子をもう少し伸ばしていく、これは学力だけじゃなく体力もそうなんだけど、そういう点についても施策の方向性で、いい子をもっと伸ばす、そういう教育もぜひ進めてほしいなと思います。</p> <p>以上でございます。</p>
河合委員長	<p>はい、今、8ページの(3)に関わって市長さんの方から2点ご指摘がございました。本文の3行目の協働学習というものが具体的によくわからない、もう少し説明がいるのではないかなということと、それから、個を大切にした教育の充実という事で、少しこのところの記述も、今、ご説明があったように、市長さんの思いとしてはですね、今、わたしも理解したわけでありませう。</p> <p>わたしは、今、市長さんがご指摘になったところに関わって言えばですね、この協働学習は私も中身はわかりません。おそらく、みんなで仲良くってことだと思いますけど、こういうものの中にはきちっとした言葉を使う必要があると思います。例えばですね、教育課程審議会で、新しい学習指導要領を作るために、教育課程部会で企画特別部会で論点整理というものが出されました。昨年の8月だと思いますけど、その中でアクティブラーニングという学習方法を取るものを最も大事な事としてですね、これからの学習というのは主体的対話的な深い学びの実現という言葉があるのです。つまり、ICTもみんなと一緒に仲良くやるのではなくて、子どもたちが主体的に学んでいく、それは対話的や協働的ですね。そして、一番大事な深い学びをどうやったら実現させられるか、アクティブラーニングの考え方もそこから出ていると思うのです。ですから、このところ、わたくしも「協働学習」、この言葉を使うかは別として、やはりきちっとした言葉を引用でも結構ですから、こうした大綱というのはやはり、文科省が考えているような方向へ私たちもシフトしていくということを意識して作る方がいいかなと私は思っております。</p> <p>それから(3)ですが、確かな学力のため、個に応じるということは、この文章でいくと細やかな教育ということですね、わたくしは職員には丁寧な指導という事を言っておりますが、そうした観点からも具体的な論述の中では展開をされるべきだろうと。つまり、「協働学習」という言葉の是非、私はこれを使うとするなら先ほど言いましたように、文科省が主体的・対話的な深い学びの実現、ためにというような、おすすめてか、つまりアクティブラーニングの観点ですよ、そうしたものも欲しい。それから、個を大切にした教育の充実というのは、非常に微妙なところで、市長さんの思いを垣間見ることができたのですが、この言葉はいろいろな意味で取られますので、論述的には注意しながらやっていく必要があるかなと思っております。</p> <p>竹中委員さんお願いします。</p>
竹中委員	<p>はい。こういう大綱といった大きな事柄を文章にするという事と、現実の教育現場が掛け離れてはいけないんでしょうけど、形として言葉にすることの検討だと思って聞かせていただいております。</p> <p>正直、全体像を掴むところまで、こういう風な形でまとめる事自体、私にとってすごいことだなという気持ちでいました。</p> <p>今まで28年度までの教育振興基本計画を見ますと、まだICT教育に関しては、「ICT教育」という言葉すら出てきていないような、それに関心を持ちました。</p> <p>私自身も、ここ2年くらいですか、最初、ICT教育ってなんだろう。まずはICT</p>

発言者	要 旨
	<p>が覚えられない。ITの間にCを入れて覚えようかとか思ってたぐらいのことが、これだけ世の中にICT、ICTということが、毎日のようにテレビの画面からも耳にするようになりました。ただ、この変化というのはものすごく大きな変化だと思います。それで、今、実際に「ICTを有効活用した協働学習を進め」というところでお話が出ていますけど、今まさに過渡期で、現場にもものすごいお金を投入して機器をそろえるということを前の市長さんから現市長さんも一生懸命やってくださっている、それに応えて、現場が今、試行錯誤している。そういう、一番変化の激しかった時期のような気がします。それで、これから策定するものに関しては、時期としては、それが、機械が揃った、人材も揃った、さあこれからやっという時期であるので、言葉としては、ICTを有効活用した協働学習をすすめとしか入りませんが、内容としての大きな変化があると思いますので、ICT教育の推進という方向性を示すことでしか、今は示せなくても仕方がないような気がします。以上です。</p>
河合委員長	はい。ありがとうございました。はい、細谷教育長お願いします。
細谷教育長	<p>今、市長さんあるいは竹中委員さんの方から、語句についての若干のコメントを頂戴しましたが、まだ、十分精査出来ていませんけども、最終的には脚注のところに言葉の説明が必要、つまり、これは広く市民の皆様にも、保護者の皆さんにも親しく読んでいただけるプランになるといいなというようなことも思っておりますから、脚注のところに語句を拾い出して説明を加えていくということは、今後考えておりますので、そこだけご承知ください。</p>
河合委員長	<p>はい、今、細谷教育長さんから説明ございました。やはり、勝手に言葉を使ってはいけませんので、そうやって脚注を付けるという事は非常に丁寧で理解が得やすい事だと思います。</p> <p>もう一つ、竹中委員さんのご指摘が、こういった大綱が、市長さんの言葉を使えば現場感覚も市民目線という事になるかと思いますが、そうした、現場とかけ離れたものにならないように、それでいて、少し前に進める力になるようなものというお話だと思っております。</p> <p>浅井委員さんお待たせしました。</p>
浅井委員	<p>はい。すみません、大した質問でもないのですが、私自身、この『協働学習』、先ほど岡村市長さんがおっしゃられたように、協働学習とは実際どんな学習をイメージしてこの言葉が使われたのか、ちょっと一度説明いただきたいのですが。</p>
河合委員長	語句の問題。これは、山本指導主事お願いします。
山本指導主事	<p>はい。これは、子どもたちのかかわりの中でお互い高めあっていくという、そういったイメージでいます。実際グループ活動などで話し合いをしたりだとか、それを元に教室で話し合ったりということが見られますけども、現実にはそれを通して本当に子どもたちが話し合いで高めあえているか、要するに、意見を言い合っているだけで意見を噛み合わせることでより高まっていくところまで、まだなかなか行き着いていないという、そういうこともありまして、共に学んでいくというその過程で、子どもたちが高い価値、高い学力を身に付けていくという、そういうイメージを抱いています。</p>
河合委員長	よろしいでしょうか。

発言者	要 旨
浅井委員	はい。
河合委員長	この文脈の中では、「ICTを活用した協働学習を進め」とあるから、よっぽど脚注を付けないと山本指導主事のいう事は伝わらないと思うのですが。
山本指導主事	すみません。 協働学習を進めることと、ICTで協働学習を進めることとの精査は必要だといいますが、協働学習は常に必要な教育であって、ICTだけで進めていくわけではないという、そういう意味合いでよろしいでしょうか
浅井委員	ICTを有効活用した協働学習というものの具体的なイメージとしては、例えば、話し合いだけだと、結局、「手を挙げて」といって皆で話し合いをしようとしても、内気な子は結局発表出来ない。それで、ICTで、実際、私もこの前の学校訪問で見ましたけど、全員が自分の意見とかそういうものを書いて、それで黒板にパーンと出て、結局、そうすると全員が意見を言ったことになる、そういった感覚でよろしいでしょうか。
山本指導主事	はい、そういったこともありますし、ICTを使うということでは、いろいろな子どもたちの意見を集約出来たりもしますし、使い方によっては、子どもたちが書き込んだ中のキーワードによってグループ分けをしたりとか、検索したりという事も出て来るものですから、広い意味でICTを使えば色々な意味での協働学習が出来るという、その可能性を秘めていると思います。
河合委員長	はい。浅井委員さんお願いします。
浅井委員	はい。私もそれは非常に理想的だと思いますが、唯一、気を付けていただきたいのが、結局集計するとか、そういうことを授業の時間内にやらないといけないということで、ICTを使ったからかえって時間が足りなくなったという可能性もこれはあると思うんですね。ですから、いかに時間を有効利用するか、ICTの使い方ってそういう使い方もあるんですけど、無駄をなくす為のICTというのもあり得ると思うんですね。ですから、このICT教育の推進というので、「ICTを使えばいい。使えば素晴らしい事が出来る。でも、時間が足りなくなりました。」だと、やはり問題があると思いますので、結果を出していくためのツールとしてのICTだと思いますので、ICTの為の教育ではなくて、ICTを有効利用して今まで以上の教育活動をする、ということを知りやすく表現していただけたらと思いました。
河合委員長	はい。ありがとうございました。 少しこの文言を含めて、市長さんにご指摘いただきましたので、土井指導主事、あなた、これ専門家だから、あなたの立場でご意見をお願いします。
土井指導主事	はい。ICTを有効活用というのは、先程お話があった事で、市長さんがおっしゃられたツールとして使っていく、それぞれに意見をいうということもありますし、例えば、ずっと継続的に観察・記録を取っていくという場合にも、今までですと子ども達が自分達で絵を描いてというようなこともあるのですが、どうしてもその子だけの見方があったりということもあって、時間的な長さというのを、記録をとっていったものを使ってお互いに話し合いをする時の視点を見つけるですとか、共通点を探しだすとか、そういうようなことにも活用していけるものです。

発言者	要 旨
	<p>それから、施策の方向性に書いてあるICT教育の推進というのであると、大きく二つの事があるのではないかと自分は考えています。一つは、今、ここでお話があったような教育のツールとしての使い方の部分、それから、実際の世の中の流れとして、このICT機器というのは、良い・悪いは別として、子どもたちの中にどんどん入ってきているという現実がありますので、そういうことについてのモラル教育ですとか、リテラシーですとか、そういうようなことについても、ある程度は学校の方でも進めていかなくてはならない部分があるのではないかと考えております。</p> <p>以上です。</p>
河合委員長	<p>今、出たような意見を、読む人に誤解を与えるようではいけませんので、少し言葉を添えながら考えていただくという事にしたいと思います。</p> <p>それから、今、竹中委員さんご指摘のように、今、現場で一生懸命やって下さっております。市もたくさん膨大な税金を使って下さっている。今、いわゆる過渡期の中で、どういった形でこれが利用されたいのかということ、土井指導主事のご指摘のように、子どもたちはそういう時代に生きていかなくてはならないわけですね。義務教育も含めてですね、これからの彼らは生きていく、自分の人生を切り拓いていくためには、どうしても必要な道具でありますので、それを義務教育の中で、どのように使わせていくかということも含めて、今後の研究ですけども、大綱に移れば、大綱の中にこの文言を少し、今、市長さんご指摘に始まって考えていただきたいなと思います。</p> <p>それから、もう一つですね、次のページの(6)豊かな学びを支える教育環境の整備、物理的環境の整備ということですね、今度の新しい学習指導要領でチームとしての学校という言葉が出て参ります。これは、暮れでしたか、12月の中央審議会の答申で、チームとしての学校の在り方と今後の改善の方策について、という答申が出ています。これは同時に、同じ日にどういう形だったか忘れちゃったけど、これからの学校教育を担う教師だったか教員だったかの資質向上についてセットで出てくるわけですね。つまりですね、(6)の中にどうしても、今までの組織運営の在り方を少し変えていかなくてはならない。これは、市長さんもおそらく市役所全体の中で考えていらっしゃると思いますが、学校の中も、チームとしての学校、「チーム学校」という概念をやっぱり盛り込んでおかないと、昨年の暮れに中央教育審議会がわざわざ答申文を出して、そして、学習指導要領に改定の大きな柱として、つまり、カリキュラムマネジメント、詳しくは言いませんけども、そうした形で出て来るので、その一文を使ってほしいなということを考えております。</p> <p>細谷教育長さんがいつもおっしゃられるように、もうちょっと先生方頑張れよ、頑張っているんだけど子どもたちのためにもう一步、ということをおっしゃいますけども、やはりそれは、学びの専門家としての教師を、学び続ける教師として育てていくという思いがあられますので、私たちの時代は、一人二人優秀な教師があればだいぶ学校が変わった、今は、一人二人優秀な教師がおっても学校は変わりません。全体として、チームとしての学校が、資質が、文化が良くならなければできませんので、ちょっとそんなことを入れたらなと思います。それが、社会に開かれた教育課程ということにつながっていくだろうと私は思っております。</p> <p>はい、細谷教育長お願いします。</p>
細谷教育長	<p>はい、ただいまの河合委員長さんご指摘については私も同感でございます。ちょっと目次を開いていただけますか、2ページでございますが、今、ご指摘があった大綱の教育環境整備の中にそれを位置付けるのか、あるいは、目次で言いますと、第3章の2番、幼保児小中連携教育の推進の(2)保護者や地域との協働ということがありますが、こうした、今、学校が学校だけで立っている時代ではないですから、保護者や地域の皆さま</p>

発言者	要 旨
	<p>んの応援もいただきながら、まさに「チーム学校」として、どう方向性を見据えていくのかという事が問われている時代でありますので、ここに位置付けていくのか、その位置付ける場所については事務局にお時間を頂くという事にさせていただいて、そうした関係を必ず入れていくという事だけお約束させていただきます。</p>
河合委員長	<p>ありがとうございます。先走った言い方で。私はどちらかというと大綱の方に入れていただきたいという風に思っておりますが、それは、事務局にお任せしたいと思います。十分意見が出ませんでしたけど、そうしたことを含めましてお願いしたいと思います。全体としては、私は、5時に起きて読ませていただきましたが、大変わかりやすいものになってきているというのは正直、印象として思っております。勝手ですが、(2)に移りたいと思います。(2)に、市長さんの教育施策についてということでございますので、市長さんの方からお話を色々を頂き、またご指導いただけたらと思います。よろしくをお願いします。</p>
市長	<p>はい。私の方から少し、教育施策といえますか、教育について私の考えていることをお話しさせていただきたいと思っております。</p> <p>お配りした資料は、選挙期間中に市民の方にお配りしまして、公約的な内容になっておりまして、子育てから持続可能な行政経営の分野に分かれ政策を掲げております。それで、子育てとか健康都市づくりについても、教育委員会のみなさんの関心のあることも含め、3番目の教育新生の関係で少しお話しさせていただきたいと思っております。</p> <p>新しい教育委員会制度が出来ました。これまではどちらかということ、首長は、どこまで教育委員会に口を出しているのかということは、非常に悩ましい分野でございまして、基本的には全てですね、教育内容を含めて教育委員会にお任せをして、環境整備、施設整備は市が行っていくという、そのような考え方だったと思っておりますけど、やはり、いろいろ、いじめ問題とか、最終的には市の方も市長も責任を持って対応していかななくてはならないという事もございまして、教育問題についても、一定程度は市長としても意見を申し上げていかななくてはいけないということで、こうした会議を通じてですね、これから、意見を述べさせていただきたいと考えております。それで、教育委員会が学校教育課と生涯学習課と二つの課で構成しているわけでございます。以前は、ご承知のとおり、青少年行政、文化行政もそしてスポーツも教育委員会でやっておりまして、徐々に今言った3つについては、市長部局に移管してきまして、教育委員会だけではなく、全庁的に対応するという取り扱いになってきました。今度、もう一つ、生涯学習部門については市長部局に移したいと考えております。それで、教育委員会は学校教育に専念していただく組織にしたいと思っております。</p> <p>学校教育と放課後児童の仕事を、これから教育委員会の専管事項という事でお願いしたいと思っております。これは、当然、教育委員会のみなさまのご理解を頂かなくてはいけないですし、議会の条例を改正するという手続きが必要ですので、今のところスケジュールとしましては、早ければ9月議会、遅くても12月議会に条例改正をして、来年4月から教育委員会は学校教育と放課後に特化した組織にしていきたいという風に思っています。</p> <p>確かに、生涯学習の公民館の仕事も社会教育施設ですし、教育委員会とは切っても切り離せない関係は、これは来年4月以降もございまして、手続き上では補助執行という形で生涯学習の仕事を市長部局で行っていきたくと思っています。その移す理由は、一つは生涯学習というのは、公民館の計画が中心なんですけど、それだけでなく、文化とかですね、先ほどの資料にもありましたけど、スポーツとか、子どもと青少年とか、総括的に進めていくべき仕事でございまして。そういう意味で、生涯学習は市長部局にあった方が総括、横口がさしやすいのではないかとというのが一点。もう一つは、公民館は</p>

発言者	要 旨
	<p>生涯学習の拠点でもありますし、もう一つはコミュニティの市民協働の拠点であります。とりあえずは公民館という形で残すわけですけど、また次の段階では、地域の協働の施設としての位置づけをやっていきたいと考えております。今回は、その第一弾として市長部局に移して、出来ればコミュニティとか自治区をやっている組織と同じようなところで所掌してもらえばいいかなという風に考えています。これはあくまでも私の考えでございます。教育委員会のお考えもあるでしょうし、ご理解いただいたら、次は議会で議決を受けなくてはいけないので、今のところ、私はその様に考えております。</p> <p>そして、教育委員会の方は本当にこれから、今までもやってきていただいておりますけど、小学生、中学生、日本を支えるような立派な人材をこれからも育成してほしい。そのための環境整備については、市がしっかりやっていきたいなと思っています。そういう意味で、学校施設の整備がこれまでどちらかといえば、ICTは思い切って予算を投入しているんですけども、それ以外は、私から言わせると必ずしも十分とは言えず、今回なぜバスケットボールコートをやったかと言いますと、子どもたちの体力不足が叫ばれているときに、なぜあのような壊れたものを放置しているのかというのが非常に不可解だったこと。それと、大府小学校のピアノですが、ずっと前からピアノを変えてほしいと言われていた。けれど、担当から言わせれば「音が出ればいいんじゃないか」と、そういう発想だったんですが、それでは良い子が育たないので、これこそまさに市がやるべき仕事、そういった環境整備、施設整備とか、トイレも、どうしても和式という子もいるかもしれないけど、家庭では洋式なので、基本的には洋式にやっていきたいなと思っています。体育館については、学校の子どもが使うという事もありますし、いざとなれば、地震等の避難所になるわけですから、高齢者の方がたくさんしばらくの間寝泊りをするわけですから、そういう意味で、ぜひ、トイレの100パーセント洋式化というのは進めていきたいと思っています。それから、校舎とかもできるだけ手厚く施設整備をやっていきたいと思っています。ICTもある程度、いま整備ができていますと思います。確かに今、移行期にあるんですけども、確かにICTの良いところもあるんですけども、私の考えだと「読み・書き・そろばん」というのが子どもの教育の基本だと思うんですよ。ですから、「読み・書き・そろばん」の基礎をしっかり教えた上で、ICTを使っていた方がいいのだけれど、それなしでICTをやると、パソコンで漢字をなぞって書いたり、算数ドリルでも何かやっているんですけども、やはり基本は、漢字でも自分で紙に鉛筆で書くとか、算数でも100マス計算じゃないけど、ああいったものが教育の基本だと思うので、基礎を固めた上で、ICTを使っていたきたいと思えますし、それから、ALTもあくまでもツールなんですよ。ですから、ツールも有効に使っていただけるように、そのための予算を投入というのは、市役所の仕事だと思っておりますので、ぜひ、ICTとかALTの使い方というのを考えていただきたいと思えます。</p> <p>それから、学校の先生の多忙化も気になっておまして、女房が教師をやっておまして、今は退職しておりますけれども、小学校の先生の忙しさはよく理解しておまして、それを今、いろいろ国の方でも多忙化の解消策を検討しているようですので、是非、市でできることがあれば、我々に言っていただかなければよくわからないので、例えば、「紙取り機が壊れた」とかいうことであればわかるんですけど、それ以外で何か多忙化解消策で一応、私たちは図書館の仕事とか、部活の仕事とかが、もし、委託とか地域の方に、先ほどチームの話が出ましたけれど、そういうのが可能であれば、是非、学校の先生の多忙化解消策をやっていきたいと思ふし、あと相談業務、スクールカウンセラーとかそういうのも学校の先生の多忙化解消にもつながるし、また、子どもの心の健康増進にもつながるので、是非やっていきたいなと思っております。</p> <p>大府の場合、あまり聞かないんだけど、経済的に困窮している子どもというのが、全国的には6人に1人だという話もあるので、そういう子どもたちへの経済面の支援を今回少しやったのですが、必要であれば、さらにそういう方の経済面の支援を今後もやっ</p>

発言者	要 旨
	<p>ていきたいと思います。奨学金についても、今は給付型をやっていますが、更に支援することがあれば考えていきたいと思っています。塾に行っている子と行ってない子の、要するに経済的な困窮世帯については、塾に行く費用が無いということで、やはり、それで相当学習面でハンディを背負う子がいるのではないかとということで、これも設定の仕方が、いろいろ配慮すべきことがあると聞いているんですけど、ただそういった塾に行けずに学習意欲のある子については、学習面でサポートできるような仕組みをいま事務部局でも考えていただいておりますので、一生懸命やっていきたいと思っております。</p> <p>それから、表彰の関係で、教育表彰というのを年末にやっていますね、教育委員会のほうで、どちらかというとスポーツとか健康優良児というのはあるんだけど、学習面というか、そもそもそういうきっかけがないのかもしれないけれど、そういうのがもう少しあったらいいのかなと思うんです。例えば、民間の「英検」を、中学生の標準は4級ですか、3級ですか。例えば、中学生で2級を取っている子がいるかもしれませんよね。そういう子を表彰するとか、大府市出身で「数学の巨人」と呼ばれている永田雅直さんという方がみえるみたいですけども、数学でそれだけ素晴らしい学者を大府で出しているのだから、例えば刈谷市ですと「日本のエジソン」と言われた加藤与五郎さんにちなんで、小中学校で頑張った子を「加藤与五郎賞」として表彰で称えているので、大府市にも永田さんという素晴らしい「数学の巨人」と呼ばれる方がいるわけですから、数学で1年間頑張った子、それは何によって頑張ったかというのは評価するのが難しいですが、例えば「数学検定」などあると思いますので、そういった「永田賞」というもので称えるということ、これは1つは子どもたちの励みにもなるし、大府にそういった偉人がいたということも発信できるので、そういうことも今後、計画とは直接関係ないかもしれませんが、個別にぜひやっていただきたいと思います。</p> <p>これから計画をつくって、評価というところが当然出て来るわけですね。第1次の平成24年度から平成28年度の教育振興基本計画ですと、この評価のところでは、基本的には主観的な評価になるんですけど、「知育」のところで行くと「学校の授業はよくわかる」と回答した児童生徒を、例えば81パーセントだけだと91パーセントにもっていくと、こういったアンケートとか主観的な評価というのも大事だとは思いますが、これについても客観的な評価、目指す目標値をつくってもらって、それに向かって、今やっている、これからやろうとしている施策がどれだけ有効なツールなのかということも検証しながら進めていただきたいと思っております。</p> <p>大府の子は非常に学力が高いという話は聞いているんですけども、本当のところはどうなのか、どこまで公表するかというものはばかれるところはあるかと思いますが、他の市町を見てみると、学力の全国平均とか県平均と比べてプラス何パーセントを目指すとか、そういうところはあるので、個別の学校を出すとまずいけれども、全体でやるのだっいたらいいのかなとは思っています。それから、体力についても、私が一番びっくりしたのは、スポーツ推進員の「ふぁいと」で出たんですよ、大府の子のデータが。それで私もびっくりしましてね、最近はずいぶん良くなっているとはきいているんですけども、あの検査が全てとは思わないんだけど、少なくとも一つの目安であるので、体力づくりについても、「スポーツのまち大府」ですので、非常に残念なデータだと思うんですよ。それで、これは直接小中学校の教育とは関係ないかもしれませんが、先般のことですが、毎年夏の大会の前に大府高校の野球部の激励に行くんです。それで、大府高校野球部のベンチ入り20人のうち、いつもですとその20人のうち2、3人は大府市内の中学出身者がいるんですが、今回は1人もいないんです。それで、校長先生に「どうしてか？」と訊いたら、「最近、大府高校は難しくなったんです。だから、なかなか入れないんです。」と。それで、本日の朝日新聞の高校野球特集で、県内のチームの選手一覧が出てまして、そこには出身中学も出ていますが、見てみたら、やはり、大府東高校にはたくさん大府市内の中学出身者がいますが、非常に寂しいですね。これ</p>

発言者	要 旨
	<p>は教育委員会の責任ではないと思いますが、大府高校をあれだけ応援していて、万が一、甲子園に行っても、大府市の中学出身の子が1人もいないという状況だと、今年は割と強いみたいで、ベスト8は間違いなく進出しそうで、そういう意味で、ぜひ、これからも「体力」「知力」「徳育」「食育」、そういった力を持った子どもと一緒に育てていきたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。ということで、あと、どういった教育をやっていくというのは、まさしく教育委員会先生の専管事項だと思っておりますので、ぜひ、我々はそういった環境整備をしまいにありますので、よろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>以上です。</p>
河合委員長	<p>どうもありがとうございました。</p> <p>幅広くいろいろお話をいただきました。うまくまとめることはできませんけど、1点目は、教育委員会を含めた組織の改編ということで、一定の理念のもとにこれからお進めになるということでございます。それから2点目は、人を育てるという側面で、環境整備の問題と教育の中身の問題で、お考えをいくつか聞かせていただきました。とりわけ「教育の基礎・基本」ということはどういうことなのか?と、ICTもいいけど、ALTもいいけど、その辺をきちっと考えてほしいということだろうと思います。</p> <p>うれしかったのは、今の「基礎・基本」については同じ考えを持っておりますけど、教員の多忙化の解消、つまり、先生方が「教育」という仕事に専念できる体制を市長としてお考えくださっている。奥様が教員をやっていたということもありますけども、それだけに、私もいま現場の校長をやっていないくてよかったなというふうに内心思っておりますが、市長さんからいくつもの要求を突き付けられてもできないことがあるかもしれないですけど、そんな話を「大変ありがたい」というふうに思っております。それから、経済的に困窮している子どもたちをどのようにサポートしていくかという問題。また、子どもたちの顕彰について、偏りがあるのではないかと、もう少し学習面で「数学の巨人・永田雅宜さん」というお名前も出ました。私は大府の人間でありながら不勉強で申し訳なく思い、これから勉強しなければならないんですが、つまり、がんばっている子どもたちを幅広くいろいろな視点から拾い出すという仕事も教育活動として大変大事ではないか、それが大府の子どもたちに自信を与えることだろうという、市長さんのお考えでございます。</p> <p>それから、私ども耳が痛い「評価」の問題。なかなか評価の問題については、お話を伺うと、主観的な評価も、意味は十分に認めていらっしゃる。私もそのように思っているんですが、ただ、客観的に納得できる形でということがありまして、キツイお言葉の中で「大府の子は学力があると言っているけど、本当にそうなのか?」とか、それ以上は私は言いませんが、その辺の疑問もやはり、「どうなのか?」ということをやっていらっしゃる。また、最後に「体力づくり」に関わって、大府高校の例を出しながら、市長としては、大府高校がもし甲子園に出場することがあって、地元の出身者が1人もいないと、少し寂しいぞというようなお考えが吐露されました。</p> <p>縷縷広範にわたって市長さんのお話をお聞きすることができました。何かこの機会に、今の市長さんのお話の中で、お気づきの点がありましたらお願いします。</p>
浅井委員	<p>1つだけお願ひしたいことがあるのですが、いわゆる「学校の補助として地域の人を利用する」これは素晴らしいし、今度は逆に、私も地域のコミュニティにいたときに、例えば、コミュニティの運動会という、やはり、小学生とか学校の協力も必要だと、ですから、生涯、いわゆるコミュニティの存在と学校の存在が、できるだけくっついていたほうがいいですから、部局が移っても、横のつながりができるだけ今以上に、変な話、いま一緒に教育委員会にあるといっても、どちらかといえば、お互い意思の疎通が</p>

発言者	要 旨
	<p>本当にスムーズにはいっていないようなところもあって、学校にどうやって頼もうか？ などという時があって、PTA会長に「ちょっと声かけてきて」というふうな感じですので、それは同じところにあるから上手くいくとか、部署が変わったからタテ割りになってしまったりとか、そういうことではないと思いますので、できるだけ地域と学校の関係が、これからもっと、よりいっそう密になるような感じの行政をしていただけるとありがたいかなと、私は思います。</p> <p>あと、もう1点なんですけれど、これは、このような場で申し上げることではないのかもしれませんが、うちの檀家さんに放課後クラブの指導員さんがいらっしやいまして、この前、その指導員さんに不平不満をだいたい言われまして、その人が言っていることが正しいかどうかは、私には一切わからないんですけど、「(放課後クラブの)素晴らしい建物があるかもしれないけど、中が崩壊クラブになっているところも結構あるよ」と言って、子どもたちが喧嘩をしているとか、うるさいとか、それで、いわゆる指導員さんのクラスによって、かなり変わってくるようで、あるところはとても静かだし、「私のところは静かだ」というふうに言っていましたけど、あるクラスはハチャメチャで、喧嘩とかが起こっても注意できない指導員さんが、今とても多いと。</p>
竹中委員	<p>ちょっといいですか。 指導員さんではなくて、囑託さんなんです。私も話を詳しく聞きました。</p>
浅井委員	<p>そうですか。囑託さんですか、すいません。</p> <p>ですから、形も大事なんですけど、本当に形の次に人というのも大事だと思いますので、人に対しても「良い方が囑託さんになれるようなシステムがあるといいね」というふうに言われたんですが、ただ、竹中委員がどのように伺ったかは知らないんですけど、私の感覚としては、放課後クラブで、みんなが静かに本を読んでいる場合で、ある指導者(囑託さん)にとっては素晴らしいと思うかもしれないけれど、例えば、ヤンチャでみんなが「ワーワーワー」やっているとというのも、これも1つの成長になるから、どちらが良いのかというのを一概に決めるのを私はできないと思って、たぶん私の感覚だと、その方は、本当に元先生だと仰っていましたから、授業中みたいにきちっとやるというのが好きだと思うんですが、これは、どちらが良くて、どちらが悪いというわけではないんですけど、喧嘩をやった時にピシッと抑えるとか、その辺だけはきちっとできたほうがいいかなと、少し思いました。</p>
河合委員長	<p>今、(3)の内容も一緒にあわせていただいたようで、放課後クラブに関しては、うちの孫も共和西で世話になっているんですが、家内も大変喜んでおられて、ピシッとした人が指導員として居られて、今聞いたら、囑託職員の問題のようでありまして、それは、私はちょっとわかりませんが、それから、今、浅井委員がご指摘のいわゆる「組織替え」のときにですね、実際にはそういうことには壁を作ってということにはならないのでしようけど、現実的に学校の子どもたちがコミュニティで活動し、そうしたところに連携というものを、私たち学校を預かる者にとっても、やはり、意識を持って地域の子どもを育てるという思いで、細谷教育長もいつも仰っておられますけれども、私たちの意識の問題もあろうかと思えます。単に管理職だけが地域とつながっていると、そういう時代ではもはやありません。先生方ひとりひとりが地域の中の子どもたちを育てていくと、ですから当然、その地域のコミュニティの問題についても自分の問題として考えていく必要があるかと思えます。行政として、またいろいろとお考えをいただけたらと思います。</p> <p>続きまして、(3)のほうに、いま市長のお考えに戻っても構いませんので、フリートークとして時間が設定されておりますので、何かこの機会に子どもたちの育ちの姿、現実</p>

発言者	要 旨
	<p>からお考えになること。または、これから大人になって独り立ちしていく、つまり、生涯学んでいくためにこうした施策が必要ではないか、このような点があるのではないかといったことが、もし、他にありましたら、市長さんが見えですので、お話をいただくとありがたいと思いますが。</p>
市長	<p>今、市役所は地域開放しておりまして、3時以降、子どもたちが1階や地下でたくさん来ていただいて、遊んだり、勉強のようなことをして、たくさん集まってきていて、それは非常にありがたいことなんですけれど、最近感じるのは、休みの日も含めて、ゲーム機を持ってきて、あそこのテーブルに座ってやっている子がけっこう目立つんですよ。それで、これは多分、先生方もずっとゲームからいろいろお悩みのことだと思うんですけど、以前、学校でそういったゲームとかケータイを何時以降しないとか、今日はノーゲームデーとかやっているというふうに、そこら辺はいまどのような状況なのか、ちょっと教えていただきたいんですけど。</p>
河合委員長	<p>どうですか。山本指導主事。 今、市長からそんなお話が出ました。</p>
山本指導主事	<p>今伺った、市役所の中で子供たちがゲームをやっていることと、家庭への働きかけということで、2つ視点があるんですけど、まず、家庭への働きかけとか、学校の呼びかけという点では、月に一回のノーテレビ・ノーゲームデーというのを実施して、幼稚園、保育園から小学校、中学校までやっています。ただ、その捉えが、ノーテレビ・ノーゲームということで、全く見ないというふうに捉えている家庭や学校の先生がいたり、趣旨はゼロにすることではなくて、今まで2時間やっていた子が1時間にして、その分、家族と話をするとか、家族と一緒に過ごす時間を意識するという、それが目的だろうということで、今、少し基準とか考え方があいまいになっておりまして、それを少し時間をかけて、意見をもらいながら整理していこうという段階で、今、進めています。</p> <p>それから、市役所に小学生が集まって来て、2階から見ても、ゲームをやったりしている部分がある意味ほほ笑ましい部分と、ちょっとどうかと感じる部分がある、私個人的にはあります。その過ごし方もご意見をいただきながら、また学校に対して伝えていったほうがよければ、また伝えていきたいと思っておりますので、ご意見よろしくお願いたします。</p> <p>以上です。</p>
河合委員長	<p>子どもたちの公共施設でのマナーの問題ですね、昔からイタチごっこのところもありますけど、再度そういう観点から、市長さんも気にされているぞと。</p>
市長	<p>ゲームもみんなで集まってやってもらうのはいいんだけど、たぶんそれは、家でもずっとこういう状況なのかなと思うと、ちょっと心配だったと。たまにみんなで集まってゲームで遊ぶというのは、それは別に構わないとは思んですけど。</p>
浅井委員	<p>これは大したことはないのですが、うちの子どもが英会話の教室に行ったときに、非常に体つきがしっかりとしたお母さんがみえて、お話を伺ったら、ソフトボールの元全日本の投手をやっている、冬はニュージーランドで合宿をやっていたとかいう方だそうで、そのお子さんもいらっしゃったんですけど、「最近の子どもはもうダメ。うちの子もそうだけ」と仰るので、「何ですか」と尋ねると、「外で遊ぶ時間があまりにも少なすぎる。私たちの頃は野山を走り回って足腰が鍛えられた」つまり、遊んでいて</p>

発言者	要 旨
	<p>鍛えられたんだけど、今は鍛えようと思わないと鍛えられない。遊びという、じっとしたゲームだから、その分、筋肉は付かないから、私が「うちの子どもも含めて、お子さんもスポーツマンにしたらどうですか」と言ったら、「無理」と一蹴されてしまいましたが、「遊び」と「体づくり」というのが一体にならないと、今は野球やサッカーなど、スポーツをやっている子がトレーニングで鍛えるということがあっても、スポーツをやらない子は、全くスポーツをやらないふうになってしまいますから、二極化が進むというか、「頑張ってトレーニングをする子」「動かない子」というふうになってしまって、そのせいで平均値がかなり下がると思いますから、上の子たちをこれ以上上げるのは結構難しいと思いますから、平均値を上げるのであれば、あまり運動しない子を少し上げれば平均値もグッと上がると思いますので、そうしていただければと思います。</p>
細谷教育長	<p>市長、浅井委員からご指摘がありました「体力」の問題については、私どもも大変心を痛めております。これは、しばしば申し上げるのですが、「逃げる」とか「言い訳をするとか」いうのではなくて、いままさにご指摘があったように、学校教育だけで体力の問題を考えていっても所詮限界はあるし、それ以前の就学前の問題もあるし、家庭や地域での過ごし方などトータルで考えていかないと、なかなか改善していかないのだろうと思っています。もう時間がありませんので、十分な議論ができませんけど、「体力」の問題は、全国で愛知県がワーストだという実態があることについて、私はそのことがとてもショックでした。ですから、愛知県の平均を超えればいいとかいう話は、極めてレベルの低い話なので、そういう点では、まさに全国平均と比べて届いているのか、届いていないのかという物差しで測っていかないと、「愛知県平均を超えているから大丈夫」ということを言っていたら、本当にレベルの低い話になるだろうと思いますから、総合的に「なぜ愛知県が低いのか」ということの原因追究も含めて、大府はそこを目指すのではなくて、ここを目指していきたいということで、また、教育委員の皆さん方のお知恵をお借りしたいということでございます。</p> <p>以上です。</p>
河合委員長	<p>細谷教育長さんが最後にお話をくださりまして、私はうまくまとめることができませんが、とにかく、子どもたちの現在と将来を考えながら、「私たちができることは何なのか」また、「やってやらなければならないことは何なのか」ということを峻別しながら、意識を持って取り組んでいかなければいけないかなと、市長さんや皆さんのお話を伺いながら感じた次第です。</p> <p>とり回しの不十分さから、深い議論ができずに時間だけ費やしたという思いもあります。しかし、市長さんからいろいろご発言をいただいたおかげで、私どもも市長さんが行政のトップとして、何を考えになっているのかを理解することができたということは、本当に意味のある会だったというふうに思っております。</p> <p>市長さんに改めてお礼を申し上げて、次に進みたいと思います。</p> <p>(4)今後の日程について、事務局お願いします。</p>
課長	<p>今後の日程についてですが、この「総合教育会議」は運営要綱の第2条にありますように、毎年5月、9月及び2月に開催ということで定められているのですが、今回、私どもの諸事情により、開催時期が遅れまして申し訳ありませんでした。</p> <p>次回につきましても、通常ですと9月に開催の予定なのですが、いろいろ市長の予定等を見て、秘書広報課と調整しましたところ、市長の予定が空いているのが10月17日(月)ということでしたので、この日の午後3時からということで、仮に設定させていただきます。ご予定くださいますようよろしくお願いいたします。また、正式に日程が決まりましたら通知を差し上げますので、よろしくお願いいたします。</p>

発言者	要 旨
河合委員長	<p>今、お話がありましたように、今後の「第2回総合教育会議」は10月17日(月)午後3時ということだそうですので、予定のほうをお願いしたいと思います。</p> <p>最後になりますが、4 その他 でございますが、委員の皆さん、何かこの機会にありますでしょうか。</p>
	(特になし)
	<p>無いようですので、予定の時間にも達しておりますし、平成28年度第1回総合教育会議を終了します。皆さんありがとうございました。</p>